

試験が大幅に難化!

1級建築施工管理 技術検定

ストレート合格率(試算)
(学科試験合格率 × 実地試験合格率)

13.3%

最終的に非常に低い合格率

※1) 上記合格率は当学院が独自で試算(学科試験合格率×実地試験合格率)したものです。

平成29年度
学科試験合格率 **39.7%**

平成28年度比 -9.7ポイント

平成29年度
実地試験合格率 **33.5%**

平成28年度比 -12.1ポイント

※2) 合格基準:「得点が60%以上」から平成29年度は「得点が56%以上」に下方修正

平成29年度 実地試験について

平成29年度の実地試験は、全体的に初出題の内容が多かったほか、ネットワーク工程表が17年ぶりに出題されるなど、明らかに難易度の上昇が見られたことから、合格率は近年稀に見る低さとなりました。技術者不足の折、試験制度の見直しなど、国を挙げて技術者確保への取り組みを推進してきましたが、平成29年度の試験結果を見る限り、それらの取り組みはただ単に

「資格者を増やすため」のものではなく、「資格者として求められる知識、技能を持つ技術者を増やすため」の機会(チャンス)を拓けるものであり、実地試験を突破し、資格者となるためには、技術者として求められる高いレベルの知識をしっかりと身につけておく必要があります。

近年の実地試験では

過去問だけではカバーできない、最新の施工管理の情報や経験、社会的背景など技術者として必要不可欠な知識が試される

実地試験に合格するには、**学科試験範囲の十分な理解が必須**

平成30年度 学科試験免除者限定

実地試験突破に向けて技術者としての知識、記述力を習得できる学科・実地対策講座を

特別価格で提供!

平成30年度受験

[学科講座+実地講座]

1級建築施工管理総合セット

(ストレート合格対策)

~~560,000円+税~~ ▶ **460,000円+税**

10(税別)万円
おトク

記述力
強化教材

学科対策講義で実施するテストにおいて、下記の記述解答問題を提供し、実地試験における記述力を養成
演習テスト(全10回 学科講座)、科目仕上げテスト(全4回)、模擬試験(全2回)、総合答練講座(全2回)

講座内容等はカリキュラム強化のため変更となる場合がございます。※税込受講料は、税別受講料に受講申込日時点での消費税率を乗じた金額となります。

平成29年度 1級建築施工管理技術検定

学科試験 当学院基準達成
当年度受講生 合格率

88.2%

全国合格率
39.7%に対して

9割出席・9割宿題提出 当年度受講生397名中、合格者350名
<平成29年7月21日現在>

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

平成29年度 1級建築施工管理技術検定

実地試験 当学院基準達成
当年度受講生 合格率

74.2%

全国合格率
33.5%に対して

7割出席・7割宿題提出・実地模擬試験②得点率6割以上
当年度受講生356名中、合格者264名 <平成30年2月2日現在>

総合資格学院



www.shikaku.co.jp

総合資格

検索

Facebook 「総合資格 fb」で検索!

平成29年度1級建築施工管理技士実地試験が、なぜ難しかったのか？

■平成29年度実地試験の出題分類

○…学習可能な問題 △…過去出題のテーマだが、経験記述のため様々な知識を要する ×…学習できない問題

No.	出題		設問数	過去10年間の過去問で学習できる問題・できない問題	
1	問題1	経験記述 (合理化)	1	△	経験記述では品質・合理化・環境管理・工程管理・安全の分野から例年出題され、平成29年度も「合理化」が出題されましたが、 合理化にプラスして品質管理や環境管理の知識も問うような複合的な出題 で、応用力が問われています。
2					
3					
4					
5					
6					
1	問題2	一般記述	1	×	過去10年の過去問で学習できない問題が、 80% ここがポイント！ 実地試験の過去問を10年分繰り返しても、試験に出たのは たったの5問 。残りの20問は過去10年間で出題が無い内容が出題されています。
2			×		
3			×		
4	問題3	躯体	1	×	
5			○		
6			○		
7			×		
8	問題4	仕上げ	1	×	
9			×		
10			×		
11			×		
12			○		
13			×		
14			×		
15			○		
16	問題5	施工管理	1	×	
17			×		
18			×		
19			×		
20	問題6	法規	1	×	
21			×		
22			×		
23			×		
24			×		
25			○		

平成29年度の1級建築施工管理技士実地試験は、過去10年間で最低の合格率33.5%に現れているように、大きく難化しました。これには、試験の出題傾向の変化が影響しています。例えば問題5でネットワーク工程表が平成13年以来的出題になったように、経験記述以外の問題2～6の設問において、過去10年間の過去問を解いても学習できなかった内容からの出題が、80%を占めていました。

■難化する実地試験に対応するために

- 合格基準を熟知した第三者の添削を受ける
- 文章表現のブラッシュアップ
- 学科試験時点から、記述を見据えて用語等の知識を蓄えておく

+ 学科試験の知識を再学習し、記述を見据えたもう一段階のレベルアップ

実地試験対策としては、まず経験記述対策として、合格できる記述を身に付けるために、徹底的に第三者に添削を受けることが必要です。しかし、難化する試験に対応するためには、さらに一歩進んで、**学科試験で学んだ知識を再学習し、過去の実地試験では問われていない分野も含めて、記述レベルまで理解を深めておくことが必要です**。実際、平成29年度の試験では、学科試験の得点と実地試験の合格率は比例しており、学科高得点の方ほど、実地試験での合格率が高い結果が出ています。

